

2/10
(土)

原子力防災訓練

迅速に対応するために

2月10日、九州電力川内原子力発電所での重大事故を想定して鹿児島県原子力防災訓練が実施されました。

本町でも原子力発電所から30^キ圏内（緊急時防護措置を準備する区域＝UPZ）に該当する5集落を中心に訓練が行われ、役場職員や分遣所職員、消防団、住民ら約180人が参加しました。

訓練では、町文化ホールを避難所と想定してバスや自家用車を利用した避難訓練を実施したほか、旧サンセット長島駐車場では、県や協力自治体職員、自衛隊による避難退域時検査と原子力災害医療措置訓練が町内で初めて行われ、これに併せ、阿久根市内の9集落から約50人の避難者を受け入れる「広域避難受け入れ訓練」も実施されました。

訓練終了後、長島町消防団夕見分団長の小屋正隆さんは「阿久根市と合同で訓練することで、緊急時の避難方法や流れが見えてくる。消防団としては訓練を通して本部と分団との連携強化を図って、災害時に迅速に対応できる体制を取っていきたい」と話しました。

緊急集合場所で職員の確認後バスへ乗り込む住民ら（夕見）



表面汚染検査機器で放射線量を測定



2/10
(土)

蔵之元小学校長島の食を学習

みんなで育てたジャガイモ

2月10日、蔵之元小学校で、昨年の秋から育てたジャガイモの収穫体験と販売体験が行われました。

これは、5年生の総合的な学習の時間の中で、「長島の食」を体験的に学習できないか児童自らが考え、地元の農業委員会委員を務める脇田恵子さんに相談したところ、同校で例年行っているジャガイモの栽培を発展させ販売までを挑戦することが決定。ジャガイモの販売に向けて児童らは約1カ月前から接客の練習やポップ制作を行いました。

同日の午前中に全校児童で掘り取ったジャガイモを午後から道の駅「ポテトハウス」で5年生が販売体験を実施。約50^キあったジャガイモは、児童らの一生懸命な取り組みと保護者の協力により、わずか1時間で完売となりました。

販売体験をした二階堂美祐^{みゆう}さんは「全校児童で育てたジャガイモを5年生で販売し、完売することができてうれしかった」とジャガイモの栽培から販売までの努力を振り返りました。

みんなでジャガイモを収穫



蔵小自慢のジャガイモを販売

